

元福岡女子大家政 平松園江 中村学園短大 才田真喜代

佐賀大教育 ○甲斐今日子 中村学園短大 森まき子

目的 これまで紙おむつの品質、特に「むれ」と関係の深い透湿性について布おむつと比較検討し、市販されている紙おむつはまだ改善の必要があり、その使い方には工夫がいることを報告してきた。年々、紙おむつの宣伝はめざましく、数多くの商品が街に氾濫するようになり、一方、育児誌や新聞の家庭欄等でその使用の是非や使い方について論議されるようになってきた。そこで、紙おむつの使用の現状を把握し、紙おむつ使用増加の原因と問題点を捜すとともに、今後の研究資料を得ることを目的とした。また、現在市販されている紙おむつの品質表示や宣伝内容についても調査し、果して正しい情報が提供されているかどうかの検討を加えた。

方法 紙おむつ使用の現状について、福岡、佐賀両市とその近郊に居住する24ヶ月以下の子供を持つ母親を対象として、アンケート調査を実施した。調査方法は、面接による聴き取り法で、内容はおむつの使用状況とおむつに対する意識である。また、家族状況や職業、育児誌の講読の有無についても調査項目に加えた。

結果 おむつの使用状況については、布おむつと紙おむつとを併用している人が最も多かった。紙おむつを使用する理由で最も多いのが「長時間使用できる」であったが、紙おむつのみ使用している母親は、併用組に比べて「手間が省けて便利である」という理由が多かった。よく使用されている紙おむつは大手メーカーのものが多く、メーカー側の宣伝効果や、母親のブランド志向がうかがえた。拡大家族より核家族の母親の方が、また有職の母親より専業主婦の母親の方が、紙おむつの使用者が多い傾向が見られた。